

留学体験記 新羅大学(韓国)

人間関係学部 心理臨床学科

4年 2101025 奥平由依

私は以前から韓国の文化に関心があり、韓国へ留学に行きたいという目標がありました。ですが、新型コロナウイルスの影響で交換留学は数年行われておらず諦めようと思った頃、再開するという掲示を目にして留学を決めました。

実際に韓国に行く前まで韓国語を話したことがなかったので不安でいっぱいでした。言葉が通じないもどかしさで苦労した部分もありましたが、その分早く上達したいと思い必死に勉強しました。前期に通った語学堂では多国籍な友達との出会いがありました。国籍も文化も違う、出会うはずのなかった人々との出会いはもっと理解したい、もっと伝えたいという思いが芽生え、語学勉強をしていくうえで大きな力となりました。後期に通った大学では様々なことを経験でき、1年の留学を通して最も成長できた時期となりました。大学の授業に参加して言語の壁の高さを痛感しました。留学を初めて6か月、私の語学力も大幅に上昇したように感じていましたが、やはり現地の大学生と共に専門の授業をこなすことはとても大変でした。授業の予習復習はもちろん、授業を録音して帰宅後すぐに聞き直し、聞き取れない単語は友達に聞くなど理解する努力をしました。結果、全授業習得することができ、満足いく評価を得ることが出来ました。

1年間の留学を通して辛いこと、嬉しいこと、やり遂げたこと、悔しかったこと、様々なことを経験しました。勇気を出してした発言、行動など小さなこと一つ一つが積み重なり、留学を終えた今、大きな自信となっています。大学の4年という短い期間の中の1年を韓国で過ごすことができ貴重な経験となりました。私の留学をサポートしてくだった沢山の方々に感謝しながら、これから先も色々なことに挑戦していきたいです。

